

だい か 第4課 まことの信仰を回復しなさい(I コリ12:31)

あなたがたは、よりすぐれた賜物を熱心に求めなさい。また私は、さらにまさる道を示してあげましょう。(I コリ12:31)

がつがくいんふくいんか さいご か 5月学院福音化の最後の4課です。コリスト人への手紙第一12章から最後の章までの内容ですが、聖書は皆さんがあれぞれ時間をかけて精読してください。今日はその中で「賜物」に関する部分を見てみます。

すぐ 救われた神様の子どもたちが究極に到達する最終の目標地点は、永遠のいのちでも、天国でもなく「愛」です。マタイの福音書22章に、ある律法の教師とイエス様との対話で、イエス様は「心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして神を愛し、隣人をあなた自身のように愛せよ」と言われます。順番として、神様を愛することが最初であり、次に隣人を愛さなければならないというのではなく、神を愛すこと、隣人を愛することは両方とも同じ大きく最初になる戒めだというみことばです。つまり、二つは同じものだということです。続いておっしゃったのは、聖書全体がこれ（神を愛す、隣人を愛す）にかかっていると言われます。



マタイ22:37-40

37 そこで、イエスは彼に言われた。「『心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』

38 これがたいせつな第一の戒めです。

39 『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』という第二の戒めも、それと同じようにたいせつです。

40 律法全体と預言者とが、この二つの戒めにかかっているのです。」

「愛」が「すべてだ」ということです。ヨハネの手紙第一では、神は「愛」であり、私たちが先に神を愛したのではなく、神がひとり子イエスを供え物とし、私たちを生かすによって神の愛が私たちに示されたと言っています。

I ヨハネ4:7-10

7 愛する者たち。私たちは、互いに愛し合いましょう。愛は神から出て
いるのです。愛のある者はみな神から生まれ、神を知っています。



8 愛のない者に、神はわかりません。なぜなら神は愛だからです。

9 神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちに、いのちを得させてください
ました。ここに、神の愛が私たちに示されたのです。

10 私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの
そな もの み こ つか てがみだいに
供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。

コリント教会の中にあった問題は、結局「愛の不在」すなわち神様を信じない問題だったのです。終わりの日には困難な時代がやって来ることを書いた、テモテへの手紙第二の3
章をこのように解釈することができるでしょう。

- 創3章 自分中心(自分を愛し)

- 創6章 物質中心(お金を愛し)

- 創11章 成功中心(大きさにいはって、おごり高ぶる)

- 神を愛するX(快樂を愛することを神様を愛することより優先)

- 隣人を愛するX(情け知らずの者、和解しない者、そしる者、節制のない者、粗暴な者、
善を好みない者)

だれの目にも明らかなほどの特別な賜物を持っていた人々が、そうでない人々を無視し、
また、そのような賜物を持っていなかった人々は、それを持っていた人々を嫉妬します。パ
ウロは紛争と分裂の原因の一つであった賜物について長く説明をします(12-14章)。賜物
とは、同一の聖霊の中で神様のみこころに従って、キリストのからだの各器官として立て
てくださったのであり(12:11、18、27)、みんなが「よりすぐれた賜物を熱心に求めなさい」
と12章を結び、13章全体で「愛」について記録をし、そして再び14章で賜物について説明
しています。

ですから、私たちはお互いの賜物に嫉妬したり自慢しないで、ともに、よりすぐれた賜物
を求めるなければなりません。

コリント人への手紙13章は、愛の絶対性（1-3節）と本質（4-7節）、そして永遠性（8-13節）について記録しています。その中で特に愛の本質を記録している4-7節は、私たちに熱心にそのように愛しなさいではなく、神の愛の本質として来られたイエス・キリストがそのような愛で神を愛し、強盗に会って死ぬようになった私たちを隣人として愛してくださったことを言っているのです。4節の愛ということばにイエス様の御名を入れて、7節まで読んでみましょう。

4 愛(イエス)は寛容であり、愛(イエス)は親切です。また人をねたみません。愛(イエス)は自慢せず、高慢になりません。

5 礼儀に反することをせず、自分の利益を求めず、怒らず、人のした悪を思わず、

6 不正を喜ばずに真理を喜びます。

7 すべてをがまんし、すべてを信じ、すべてを期待し、すべてを耐え忍びます。



まことの信仰の回復は、神の愛の内容であるイエス・キリストと十字架を知ることです。（「知る」ヘブル/ギノスコ - 連合して、同居してること）。心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして神を愛された方はイエス様であり、隣人を自分の体のように愛された方もイエス様です。神様は、イエスを主とキリストとして受け入れ、一体となって連合している私たちを神を愛する者と見なしてください、また他の隣人たちに神の愛を伝える者として立ててくださいましたのです。